

第4回足立区区民評価委員会会議録

日 時 平成29年9月1日(金曜日)

場 所 足立区役所 中央館8階特別会議室

第4回足立区区民評価委員会会議次第

日 時 平成29年9月1日(金曜日) 午後1時00分から午後2時32分

場 所 足立区役所中央館 8階特別会議室

出席者 区民評価委員会委員(15名)

田中隆一会長、石阪督規副会長、遠藤薫委員、藤後悦子委員、沼尾波子委員、
五十嵐多江子委員、笠間美伸委員、金子正委員、田島のぞみ委員、中島明子委員、
長谷川浩一委員、村田文雄委員、森泉孝行委員、矢野毅委員、山崎千枝委員

区側出席者

政策経営部長、政策経営課長、財政課長、経営管理担当(2名)、財政担当(2名)

- 議題等
- 1 足立区区民評価委員会報告書のまとめについて
 - (1) 前回は意見のあった部分の修正について
 - (2) 「報告にあたって」について
 - 2 その他
 - 集合写真の撮影

資 料 足立区区民評価委員会報告書(案)

午後1時00分 開会

事務局（政策経営課長） 皆様、こんにちは。定刻となりましたので、ただいまより第4回区民評価委員会を開催させていただきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。第3回に引き続き活発なご議論をいただければありがたく存じます。

それでは、田中会長に以降の進行をお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

田中会長 皆さん、こんにちは。先週に引き続きまして、本日、第4回の区民評価委員会を開催してまいりたいと思っております。

本日の議題は、今年度の区民評価報告書の内容の検討及び確定をしていくということでございますけれども、先週同様、非常に活発な議論をよろしくお願ひいたします。今回、報告書について議論をして、来週の金曜日に、僭越ながら私のほうから区長に答申をさせていただきますので、今日が最後の検討会議ということになるかと存じますが、何とぞご協力のほど、よろしくお願ひいたします。

1 足立区区民評価委員会報告書のまとめについて (1) 前回意見のあった部分の修正について

田中会長 では、次第に沿って会議を進行してまいりたいと思っております。本日席上に配付された足立区区民評価委員会報告書（案）に関して、前回の意見のあった部分の修正について、事務局から説明をよろしくお願ひいたします。

事務局（経営管理担当係長） 私から報告書（案）の前回ご意見をいただいた部分の修正を踏まえて連絡をさせていただきます。

初めに、報告書の10ページをご覧くださいませでしょうか。各分科会の担当事業及び5段階評価の表についてですが、全体評価の欄を強調いたしました。ほかの分科会についても同様な形で行っております。

次に、13ページとなります。各分科会の提言の箇所についてですが、こちらわかりやすくするため、提言のタイトルの箇所を強調し、工夫をさせていただきました。ほかの分科会についても同様となります。

続きまして用語解説になりますが、例として14ページをご覧ください。用語が初めて出てくる箇所には、アスタリスク（*）と、用語解説のページ数を入れさせていただきました。

189ページをご覧ください。こちらで報告書に記載されている言葉に合わせて、解説の箇所を削除しております。ご意見のありましたQOL、授産場を含めて新たに追加をいたしました言葉については、上から順に協創プラットフォーム、授産場、フードドライブ、QOLとなります。

なお、報告書に掲載されなくなった言葉については、用語解説から削除いたしました。統一した扱いとさせていただきたいため、ご了承をお願いいたします。

また、「ひと」分科会の提言、15ページに出てきました「バーンアウト」という言葉ですが、日本語の表記にかえまして、「過度な負担とならないよう」という表現に修正をさせていただいております。ご確認いただければと思います。

承ったご意見の反映については以上になります。

続きまして、事務局で修正をさせていただいた点を3点ご報告させていただきます。

8ページをご覧ください。事前にご連絡をさせていただきましたが、各重点プロジェクト事業評価調書を確認した結果、決算数値の誤りがあることがわかりました。各分野にまたがっておりますので、修正した箇所の正誤表を机の上に配付させていただきました。決算数値の誤りについては、当初の予算額のまま計上してしまったものなどが原因となります。この8ページの表を含めまして、各分科会の冒頭にあります表にも当初予算の決算額が合計で記載されておりますので、あわせて修正させていただきました。大変失礼いたしました。今日お手元にお配りしている報告書は新しくなった修正後のものになります。

2点目となりますが、171ページをご覧ください。こちらは目次にありますとおり、本来、「足立区行政評価マニュアル」を掲載すべきところ、事務局のほうで誤って事務運用上使用する運用マニュアル、より細かいものを掲載してしまったために、差し替えをさせていただいております。

最後、3点目となりますが、再度内容の確認を行わせていただきまして、言葉のつながりなどの工夫や適宜「てにをは」の修正をしております。評価内容に影響する部分については、各分科会長にご説明の上、修正させていただきました。本日お配りさせていただいた報告書を最終案とさせていただきたいと思っております。

事務局からの説明は以上でございます。

田中会長 どうもありがとうございました。以上の説明について、ご異議がなければこの文案で進めたいと思うのですが、いかがでしょうか。

沼尾委員 最後の171ページの行政評価マニュアルなのですけれども、これはでき上がっているものを添付しているのであればいいのですけれども、よく法律の場合は「改正」というのですけれども、マニュアルの場合は「改訂」という言い方が割と一般的で、前のものが誤っていて次が正しくなったという感じではなくて、バージョンアップしながらマニュアルって動かしていくものなので、割と「改訂版」という言葉を使うことが多いと思うんですけれども、これは既に区のほうで「改正版」という名称で確定しているのであれば、これを添付するということになると思うんですが、そのあたりはどうなのかなと。

田中会長 事務局、いかがでしょうか。

事務局（経営管理担当係長） 「改訂版」ということで改めて修正させていただきたいと思いません。ありがとうございました。

田中会長 どうもありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。

森泉委員 「授産場」なんですか。「授産所」ってよく聞くんですけども。

沼尾委員 「授産場」です。

森泉委員 「場」でいいんですか。

沼尾委員 「場」です。

田中会長 ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。何かお気づきの点等があればお願いいたします。前回出た、例えば用語の注記等に関しては、わかりやすくなっているのではないかというふうに思いますし、報告書の文案に関しても、内容に関しては各分科会の先生方にご相談の上で詰めさせていただいておりますので、ほぼほぼ修正が前回の議論に基づいて行われたのではないかと思います。特にご異議がなければこの文案で……。

金子委員 用語の件であります。これは決定した報告書ということで、これに異議があるということではないんですが、この報告書は68万人という足立区の皆様に報告する公的なものであります。そして現在いる68万人だけでなく、将来足立区民になる方々も見られる可能性があると思います。

そうした中で、一つ一つの用語がどうのこうのというのではないんですが、全般的な印象としまして、私は片仮名語が多過ぎると思います。日本語というの長い歴史を経まして、情緒的なこと、あるいは法律、科学技術、そういったあらゆる分野において、日本語で表現できないものというのは今ないと思うんですね。それにもかかわらず外国語、特に英語をそのまま片仮名にしたような表記が今あふれていると思うんです。この報告書に限らず日本中ですね。一地方自治体の努力だけでは、そういったことはできないのかもわかりませんが、できるだけわかりやすい日本語に直して表現するというのが我々の義務ではないかと思うんですね。

振り返ってみますと、日本に初めて仏教が入って、漢字も入ってきました。そのときに日本人は、なすすべがなかったものですから、そのまま漢字を取り入れて表記するしか方法がなかったんですね。でも、その後300年、400年の間に平仮名を発明したり、片仮名を発明しました。そして和漢混交という、すばらしい文学も発展させました。さらに下って明治時代になりますと、全く新しい文物が入ってきて、そのときに日本人はどうしたかという、新しい言葉をつくっちゃったんですね。造語をしました。例えば新聞とか哲学、鉄道、倫理、民主主義、そういったものをつくったわけですね。そしてそれらの言葉が今、日本でずっと使われております。

さて現在、英語を中心とした文化、文物がたくさん入ってきていますけれども、現代の日本人というのは、それを日本語に翻訳する努力を怠っているという感じがします。我々だけでどうすることはできないんですが、それを踏まえて、こういった報告書をつくるに当たって、なるべく日本語で表現できるような、そういった努力が求められていると思います。以上です。

田中会長 どうもありがとうございます。非常に貴重なご意見で、前回の議論で、できるだけ片仮名用語というものは少なくしたほうがわかりやすい報告書になるのではないのかという議論がありまして、具体的に前回、「デジタルサイネージ」という言葉を「電子看板」でいいのではないのか

というお話だったのですか、その後、事務局の方とも話し合ったところ、この「デジタルサイネージ」という言葉が、もう既に足立区の固有名詞というか、名前として使われているというふうな背景のもと、これはやはり「デジタルサイネージ」のままで行くんだということになった経緯があるわけですが、今いただいた意見のように、これは報告書に限らず普段からの言葉の使い方という点で、できるだけわかりやすい表記を心がけるというのは非常に重要な点で、それは今後恐らく区政のほうでも検討すべき課題ではないかというふうに思います。どうもありがとうございました。

金子委員 今、英語が盛んに入ってきています。ですからある意味、英語ができるということは当たり前なことなんですよ。ですけども、英語を日本語に翻訳して、特にこういった公的な役目を帯びた文書では、日本語で発表するのが適当ではないかと思います。

田中会長 ありがとうございました。ほかに何かお気づきの点等がありますか。もしなければ、この文案で進めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、この文案で進めさせていただければと思います。どうもありがとうございました。

(2)「報告にあたって」について

田中会長 引き続きまして次の主題に移りますが、報告書(案)の「報告にあたって」の部分について、説明をいたします。

この報告書(案)の最初の見開きのところに「報告にあたって」という文章を書かせていただきましたが、前回の議論で非常にたくさんの論点というものを挙げていただきましたので、できるだけたくさんの論点を漏らすことなく盛り込むことができればと思い、文章を作成させていただいた結果、2ページ目の上のほうにまでかかってしまう非常に長い文章になってしまったわけですが、基本的に区民評価委員会の目的というものは毎年変わらないので、昨年度とほぼ同じ目的から入りまして、どういうふうな評価作業を行ってきたのかということについて説明をさせていただきました。せっかくですので、私が読み上げさせていただいてよろしいですか。

では読ませていただきます。

報告にあたって

区民評価委員会(以下、委員会という)の目的は、区民目線からの「建設的な批判」を行うことで区民と区政の対話を図り、より良い足立を実現することである。13年目を迎えた今年の区民評価は、昨年度策定された新たな基本構想(足立区が目指すべき将来像)と基本計画(構想実現のための長期計画)の下での初の評価活動であった。そのため、旧計画の下で実施された昨年度の事業を、新たな基本計画の視点で評価した今年度の評価は、旧計画の総括と新計画における区政の方向性を区民目線で評価したものであり、区政にとっても特別な意味を持つものであった。

委員会では、足立区民が「より安心安全で幸福な暮らし」を営む上で優先度の高い政策である「重点プロジェクト」と「一般事務事業」の評価を行った。重点プロジェクトの評価では、昨年度の評価結果の反映度合いや事業目標の達成度、及び事業の方向性が確認された。また、一般事務事業の評価では、実施手法の妥当性・効率性等に重点を置き、評価を行った。全体会で評価方針の確認を行った後、4つの分科会に分かれ、ヒアリングや現地視察により事業への理解を深めた。その上で評価作業を行い、合議により各事業の評価をまとめた。最後に2度の全体会における審議を経て、ここに報告書をまとめた。

次頁の図は、今年度の評価結果の概要である。重点プロジェクトを評価した3つの分科会すべてで平均点が4を上回る良好な結果となり、特に「暮らしと行財政」分科会の評価は高かった。他方、極めて優れていると評価された事業がやや減少し、「ひと」と「まちと行財政」分科会では平均点が昨年度を下回ると結果となった。新たな基本計画に合わせて分科会の構成が変更された影響も大きい。新たな基本計画の下で、より高い目標に向かってPDCAサイクルを回し、進化し続けて欲しいという区民の強い期待の現れであると捉えていただきたい。

分科会からの提言では、活動・成果指標の評価方法の再検討、地域資源の活用と人材確保、事業間連携のさらなる推進、区の取り組みの積極的な情報発信などがあげられた。また、庁内における事業間連携を意識したキャリアパスの構築や、町会・自治会加入者以外への情報発信なども議論された。

商店街や町会・自治会といった、従来は地域コミュニティの中心にあった組織への加入率は全国的に低下しており、足立区も例外ではない。同時に、地域の抱える課題は複雑化しており、区政のみの対応では解決し難いものも多い。複雑な地域課題を克服するためには、区民と区政、さらには企業や大学をも巻き込んで多方向から知恵を出し合う「協創」という枠組みが有効であり、そのためのプラットフォーム創設が急務である。区政にとっても、日々の業務を粛々とこなすのではなく、創造的な枠組みの中で業務を遂行することが、納税者への説明責任を果たす上で今後さらに重要となるであろう。そのためにも、委員会の活動が協創的取り組みとして発展してゆくことを強く期待する。

最後に、長期間にわたる評価作業に最後までご尽力いただいた委員会のメンバー、評価作業にご協力いただいた区役所関係職員の皆様及び評価活動を支えてくれた政策経営課・財政課職員に深く感謝する。

平成29年9月

足立区区民評価委員会

会長 田中 隆一

何かお気づきの点等があれば、ご指摘いただくと大変ありがたく存じます。何かありますでし

ようか。

矢野委員 中ほどに「重点プロジェクトを評価した3つのすべてで平均点が4を上回る良好な結果となり、特に「くらしと行財政」分科会の評価は高かった。」とあるのですけれども、私は「くらしと行財政」なのですけれども、もろ手を挙げて4にしたのではなくて、限りなく3に近い4というのも一応ありますので、限りなく3に近いんですけれども、努力を評価して何とか4で今回はというのもあるので、そのことを一言言っておきたいと思います。

あと、確認なんですけど、足立区としては、これから5年先、10年先においても、町会とか自治会の役割というのを重要な位置づけとして、これからも公的資金を使って重要なものとして支援していくという中長期的な計画というか、予定なんですか。「くらしと行財政」分科会では、任意に入るべきものである町会とかを果たしてそこまで行政が支援する必要があるんだろうかという議論も出ましたので、一応その点も確認させていただければと思います。以上です。

田中会長 どうもありがとうございます。

まず「くらしと行財政」分科会の評価に関しては、来週の少なくとも区長への答申の際には、3に近い4というものもかなりあったというふうに申し添えさせていただきたいと思います。文章に関しても、このままではちょっともろ手を挙げてという感が強いということであれば、私に一任していただければ、少しトーンを抑えたような書き方もできますので、そのようにさせていただけますでしょうか。ありがとうございます。

もう1点、今お話がありました今後の町会・自治会とのかかわり方というか、それについて、もし簡単に何かお話があれば、よろしくお願いします。

事務局（政策経営部長） 政策経営部長の工藤でございます。今までの区のあり方から考えて、非常に町会・自治会を大切に支援させていただいて、また相互に協力して協働の枠組みをつくってきたという、これは事実でございます。ただ、これから協創を目指すという中において、今大切なのは個々、個を大切に、さまざまな団体あるいは個人、企業者、そういったことの連携を深めていくという複層的な形で発展させていこうということで今年度からスタートしております。そういった意味で、今までのあり方とは変わってはくるとは思いますけれども、ただ、現状において町会・自治会の団体の皆さんは区にとって非常に重要なパートナーでございますので、支援がどうなっていくかというのは基本的な考え方は決めていませんけれども、重要なのは町会・自治会も含めて、いろいろな形で区と連携を、そして協創の社会をつくっていくという形で進めていくような方向でこれから検討されるものというふうに私は理解しております。以上でございます。

田中会長 矢野委員、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

村田委員 村田です。上から8行目に「委員会では、足立区民」云々とあって、重点プロだとか一般事務事業の評価というところがあるんですが、「また、一般事務の評価では、実施手法の妥当性・効率性等に重点を置き」ということなんですが、ここで言っているのは多分点検項目のことを指していると思うんですが、「事業手法の妥当性」というのは点検項目にありますけれども、「効率性」

という言葉は点検項目の中では一度も出てきていない言葉なんですよ。ですから、「効率性」という言葉はちょっと外しておいて、これに近いのだったら「有効性」だとかという言葉がありますので、ほかの点検項目の言葉に置き換えていただければと思います。

田中会長 どうもありがとうございます。非常に重要なご指摘をありがとうございます。それでは、このところを例えば「事業の必要性及び妥当性等」というふうに変更させていただければと思います。どうもありがとうございます。

事務局（財政担当係長） こちらの文章につきましては、私たち財政課のほうでベースを記載させていただいております。133ページのほうにも同様の表現がございますので、今の田中会長の言葉のとおり、一部修正させていただきたいと思います。

田中会長 よろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

沼尾委員 1ページ目の下から2行目に「納税者への説明責任」という言葉があって、ある意味これは、この行政サービス自体が国民の税負担で成り立っているものだからというところなんだと思うんですけども、「納税者」と言ったときに、足立区の行政サービス自体が区民の税だけで成り立っているわけではないということとか、実際にはほとんど税負担をしていない方もいらっしゃるというときに、「区民への説明責任」という言い方のほうが妥当な気もするのですが、恐らく受益者負担というようなところを意識してということでこの言葉を選ばれているのだと思うので、今代案がすぐに思いつかないんですけども、もうちょっと誤解を生まないような記述の仕方があっていいのかなと思いました。

田中会長 どうもありがとうございます。私がここに入れたのは、今おっしゃったように受益者負担という観点もあるんですけども、前回の議論のときに、税金を払って区政というのを運営してもらっているんだというご意見が出ていたというふうに記憶しておりまして、そういった観点もやはり外せないんじゃないのかと思って記載させていただいたということなんですけど、この点について皆さんはいかがでしょうか。何かご意見等があれば、ぜひお願いいたします。

沼尾委員 恐らく前回の山崎委員のご発言だったと思うんですけども、納税者たる区民みたいな、そういうイメージだったんだと思うんですね。ただ、必ずしも税だけでもなくて、料金とか利用料の負担も含めて、負担者としての住民みたいなところだったのかなと思うと、納税者という言い方はいいと思うんですけども、逆に納税者への説明責任というのを拡大解釈してしまうと、じゃあ足立区は財政調整交付金のお金に来ていて、それは例えば千代田とか港の固定資産税が来ているじゃないかみたいになってくると話がちょっと大きくなっちゃうかなというところで、ちょっとそのあたりが若干気になったというぐらいの感じですので、工夫していただければという感じです。

田中会長 前回ご意見をいただいた山崎委員、何かあればいかがでしょうか。

山崎委員 「区民」のほうがいいんじゃないかと私は思います。納税者というよりも、区民への説明責任。払っていない方がどう思われるかと思うのと、「区民」にしたほうが、足立区のためにこ

の委員会があると思うので。

田中会長 どうもありがとうございます。それでは、この「納税者」という言葉は「区民」というふうに変更させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

金子委員 用語のことで恐れ入ります。1ページ目の下から3分1ぐらいの「キャリアパス」ですね。これは何か日本語で表現できますか。皆さんにもお伺いしたいんですけども、これを何とか、うまい日本語ですよ。

田中会長 前回の議論で出た言葉としては、人事制度としてこういうふうなことを考えてみることも大切ではないかというご提案だったというふうに記憶しているんですけども、確かに「キャリアパス」は……、何かいい案を先生方はお持ちではないですか。「人事制度」というと、ちょっと重たい感じがするんですけども、「人材育成」とかという感じかもしれないんですけども。「事業間連携を意識した人材育成法の構築」というのはいかがでしょうか。それでよろしいですか。

金子委員 私はいいです。

田中会長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

笠間委員 一番上の段なんですけど、「建設的な批判」というふうに書かれているんですけど、私はこんな感じで批判したつもりはなかったんですよ。要するに、行政がうまくいっているかどうかとか、区民がわかりやすくしているかどうかとか、そういった理解でやっていたものですから、自分としてはちょっと批判ではないなと思っているんですけど、何かいい言葉があればと思っているんですけど。

田中会長 どうもありがとうございます。「建設的な批判」という言葉は、ちょっと語調が強いというご指摘でございますね。何か皆さん、よい知恵をお借りできませんでしょうか。

金子委員 「建設的な意見」。

田中会長 なるほど。「区民目線からの建設的な意見」、それで通りますね。こちらは「建設的な意見」というふうに変更させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。どうもありがとうございます。

金子委員 これは笠間さんが話されたんですか。「建設的な批判」というのは、やった覚えはないというふうに笠間さんはおっしゃっているの。

笠間委員 評価しているときに、その気持ちで、批判という形ではやっていなかったものですか。

金子委員 わかりました。

五十嵐委員 ちょっと揚げ足とりみたいな指摘で恐縮なんですけれども、先生の報告のところに「PDCAサイクル」というのがありまして、後ろの用語解説のところ載っているんですけども、ここに「180何ページ」と書いたら、せっかくの一番最初のきれいなところに変なものが入ってちょっとおかしいと思うので、できれば私はこのままきれいなまま1ページ目に、私たちのやって

きたものをきれいにまとめていただいたので出したいんですけども、他方でこれは大丈夫かなという気もしました。個人的には入れたくないです。

田中会長 どうもありがとうございます。1つの案としては、より高い目標に向かって進化し続けてほしいというふうにして、「P D C Aサイクルを回し」という言葉をとるということが1つの案です。ただし、ここの文章は遠藤先生のご意見をできるだけ反映するというふうなことで「P D C A」という言葉を入れてみたんですけども、遠藤先生、いかがでしょうか。

遠藤委員 これは「まち」分科会の1つの柱、区長への報告ですとか、最終的に職員の皆さんの前でそのときの1つの柱だろうと思っています。つまり進化し続けるというか、次の高い目標に向かって行ってくださいと。それが実はP D C Aサイクルの本当の成果だと思っていますので、ここは残していただきたいなと。きれいなまま。いいんじゃないですか、これで。

田中会長 ありがとうございます。足立区の区民評価においては「P D C Aサイクル」という言葉がかなり定着してきているので、私たちは普通に「P D C A」という言葉を使うんですけども、確かにおっしゃるように、一般区民の方々にとってみれば、P D C Aって何だろうというふうに思われるのも無理のないというか、当たり前かなというふうに思います。ただし、それと同時に今遠藤先生からいただいたように、P D C Aサイクルを回してさらに上に進化していくということも、何とかして盛り込めたらなというふうな感じがするんですけども。

五十嵐委員 私が意見を出しておいてあれなんですけど、私もP D C Aサイクルというのは、この区民評価委員会の本当に核となる非常に重要な部分なので、この文言が一番最初のページに入っているというのはすごく重要、まさにこの委員会が何をやってきたかというのをあらわしているので、この単語は入れたいなと思います。できればきれいな形で載せたいなと思います。

田中会長 どうもありがとうございます。

事務局（経営管理担当係長） 五十嵐さんからの意見ですけども、本編中のほうに「P D C Aサイクル」という言葉が最初に出てきたところでアスタリスクを設けさせていただいておまして、ここはまえがきのところになりますので、できれば委員の皆様にもご理解をいただいて、ここにページ数とかを入れるような形は事務局としては避けたいと思っております。ご理解いただけないでしょうか。

田中会長 このような案でよろしいでしょうか。どうもありがとうございます。一番最初に出てきた難しい言葉には必ず注を入れるという大原則を私が破ってしまっていたということで、大変申し訳ございませんでした。これはまえがきですので、この案で行かせていただければというふうに思います。

ほかにいかがでしょうか。

長谷川委員 多分これは本番のきちんとした報告書では直るんだと思うんですけども、「報告にあたって」の最後のところに図がついていますけれども、この図は映像からとってきたんですね、非常に焦点がぼけたような、字体も含めて、気になりますけれども、本番のときは直るんでしょう

かねという感じの質問です。済みません。

田中会長 事務局、いかがでしょうか。

事務局（経営管理担当係長） ありがとうございます。こちらは事務局でも気になっているところなんですけれども、別バージョンのものでつくって張りつけているので、このような形になっております。本番のときは業者に依頼いたしますので、ここでは事務的なレベルの限界というところでご理解いただければと思います。

田中会長 どうもありがとうございました。いかがでしょうか。

もしほかに特段なければ、今いただいた修正点に関しまして、まず一番最初に「建設的な批判」と書いてあるところは「建設的な意見」というふうに変更させていただきまして、次に「重点プロジェクトを評価した3つの分科会すべてで平均点が4を上回る良好となった」というところで、まず終わりにしたいと思います。それから「PDCAサイクル」という言葉は残すということと、「庁内における事業間連携を意識した人材育成法の構築」というふうにいたします。それから最後に、「区政にとっても、日々の業務を粛々とこなすのではなく、創造的な枠組みの中で業務を遂行することが、区民への説明責任を果たす上で今後さらに重要となるであろう」というふうに変更させていただきたいと思います。以上の変更を反映したもので特にご異議がなければそちらの文案で進めたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。どうもありがとうございます。

では、この文案で進めたいと思います。どうもありがとうございました。

次第を見ますと、「区民評価委員会報告書のまとめについて」ということに関して用意していた議題はここまでございまして、会議自体は3時まで予定はあるのですけれども、まだ結構時間がありますので、もし何か事務局のほうであればいかがでしょうか。

事務局（政策経営課長） 私からご提案ですが、もしお時間が許せば、今日でほぼ実質的な活動が終わるので、皆様から今年度の区民評価委員会についてご意見など賜ればありがたく思います。が、いかがでしょうか。

田中会長 今のご提案はいかがでしょうか。私も皆さんに少なくとも一言はご感想をいただければと思っておりますので、どこからにしましょうか。五十嵐委員からよろしく願います。

五十嵐委員 意見を言うお時間をいただきましてどうもありがとうございます。私のほうからは2点。

前回の会合で中島委員からご指摘いただいた評価の点数が3と4と5しかないという、先ほどほかの委員からもご指摘があったところですが、実質的に3というのはほとんどつけなくて、4か5という二者選択になっているのかなと思います。プラスマイナスをつけて細分化するというのが、いいものかどうかという検討を今後したほうがいいのかと思います。その二者選択の中でも特に5というのはそんなにつかなくて、もう本当に実質4が多くて、その中で先ほど矢野委員が言われた3にすごく近いというのもありましたので、その点は検討が要るのかなと思います。これが1点目です。

2点目が、ジェンダーバランスについてです。私は2年目なんですけれども、1年目は私のほかに女性の委員で三石委員、山崎委員、田島委員がいらっしゃって、今年の中島委員がいらっしゃいます。現在の委員のジェンダーバランスは非常によくて、先生も2名女性がいらっしゃって、非常に男女のそれぞれの立場からの意見というのが反映されていいかと思います。去年の区長との意見交換の機会に委員のどなたかが言われていましたけれども、区民を代表するような委員会の構成にするのであれば、学生さんであるとか若い人を入れたりとかいう、いろいろなバランスのとり方があるかと思います。私は今年で卒業なんですけれども、来年も多くの女性の委員の方が入って、ジェンダーバランスも保ってくださったらいいなと思っております。以上です。ありがとうございました。

田中会長 どうもありがとうございました。

それでは笠間委員、よろしくお願いします。

笠間委員 今、五十嵐委員が言われたように、評価の段階で最初から4があるということで、何とかありきの評価ではないかなと思って、考え方のギャップがありました。

あと、この活動評価の中で、昨年やったものと、それを今年履行していく方法とその成果とか、そういう見方というのがなかなか理解しがたいというような形になりまして、3回ぐらいヒアリング等があったんですけれども、最後の3回目とか、その前後がちょっと頭がごちゃごちゃになったという形がありました。

あとは、この考え方なんですけど、目標値と実績値というのが、ほかの区民の方はわかるかなと。はっきりとわかりにくい。あるときは数字であったり、あるときは全体的な目標の中の数値だったり、これがちょっと理解しがたいというのが多々ございました。以上でございます。ありがとうございました。

田中会長 どうもありがとうございました。

それでは次に山崎委員、よろしいでしょうか。

山崎委員 ありがとうございました。2年目で、1年目は別所先生にお世話になって、今年は沼尾先生にお世話になりながら、ほかの委員の先生方と、大学以来のゼミのような形でとても勉強になりました。支えていただいた財政課職員の皆さんには、何を聞いても何でも真摯に答えてくれて、何でもいろいろ教えていただいて、私の視野が広がったので、ぜひこの委員会の広報というのもすると、もっと活性化するんじゃないのかなというふうに思います。ゼミのような形で勉強する機会というのはなかなかないので、もっともっと若い人とか、私と同世代の主婦の方とかも、勉強する機会って本当にないんですよね。そうすると、どんどん視野が狭くなっていってしまうので、ぜひこの委員会の広報活動というのも、もうちょっとできたらいいんじゃないかなと思っています。ありがとうございました。

田中会長 どうもありがとうございました。

次に村田委員、お願いいたします。

村田委員 一般事務事業を担当しました村田です。一般事務は重点プロとは違ってはいないんですけれども、独自視点というのがあって、点検項目ですけれども、先ほど2点ほどあったんですが、補助金等の有効性、2つ目に予算計上の妥当性というのが重点プロにはない項目ということだった。特に私はこの2つについては重点的に見たつもりでした。ただ、最初の補助金等の有効性というのは、今回全部で11の対象があったんですけれども、補助金の有効性に該当する事業は11事業中3事業だけだったんです。残り8事業については補助金対象外の事業であったわけですから、せっかく一般事務で補助金の有効性を考えるのだったら、もうちょっと財政課のほうの、多分選ぶのに苦労したんじゃないかと思えますけれども、3事業しかなかったということはちょっと残念です。

もう一つは予算計上の妥当性ですが、冊子を見ていただくと、11事業中6事業がランクで言いますとB-、いわゆる予算を見直す必要がある。11事業中6つがそういうふうに我々の分科会で出たということが、やはりちょっと気になるようなところでした。

全体としての結論から言えば、科目別的な事業点検表、全体評価ですね、我々で言うとAからCまで5段階あるんですけれども、これから区の職員も見られると思うんですけども、点検表の全体評価で一喜一憂してもらうよりも、点検表の中で下のほうに分科会意見というのがあるとは思いますが、それを見ていただければと思います。なぜならば、全体評価というのは4人の委員がそれぞれの主観を持って話していますので、すれ違ったり、あるいは委員の数が増えたりすると、当然全体が変わってくる可能性が大きいんです。その点、分科会意見というのは、全体の評価は出ましたけれども、それ以外の、先ほどちょっと出たと思えますけれども、反対意見というかな、4人の中で多数はこっちに行ったけれども、それに対する反対意見というのもあったんですよ。それは分科会意見の中で分科会長を通して入れてもらっておりますので、その点をよく読んで区の職員は検討していただければと、そういうふうな感じがいたします。以上です。

田中会長 どうもありがとうございました。

それでは長谷川委員、お願いいたします。

長谷川委員 今年初めてこういう区民評価にかかわらせていただきました長谷川と申します。一般事務事業を11やりましたけれども、こういう事業があるということすら知らなかった内容もありましたので、そういう面では非常に私自身勉強させていただいたということでお礼を申し上げたいと思います。先ほど村田委員もおっしゃっていましたが、4人の評価の中では非常に評価が分かれるというようなこともありまして、結果的に総括表で見ると、Cが2つあるような授産場の問題がありましたけれども、逆に私にとっては、最初に質問を我々がして、担当課さんのほうから説明をいただいた内容と、その後に見学に行って我々が非常に大きく印象が変わったというようなところが、この総括表には見えなくなっちゃうというところで、沼尾先生が苦心して言葉の上で表現をいただいています。こういうあたりを一般の区民の方にも、先ほど山崎委員も言いましたけれども、広報等を使いながら、こういう授産場なんかをもっと、こんなにすばらしいことをやっているところもあるんだと。お金は使っていますけれども、その辺の評価を含めて広報していただ

く機会があると、もっといいんじゃないかなと。こんなふうに思ったのが1つです。

それからもう一つは、先ほど申し上げましたけれども、我々の質問と担当課さんの説明と、それに基づいて我々の評価というところが非常に時間的にも近いということもあるし、バランス的に時間配分もあったかと思うんですけれども、それは事務方が悪いということを出したいんじゃないで、もう少し我々としても心構えを持ってしっかりやらなきゃいけないところは反省点として持っていますけれども、少しそういう点を配慮しながら、よりよく来年も評価させていただければと思っています。ありがとうございました。

田中会長 どうもありがとうございました。

続きまして中島委員、お願いいたします。

中島委員 私は3年目なんですけれども、ちょっと辛口になってきたかもしれません。足立区も最近では認知度というか、長く住みたいが50%を超えたりですとか、すごく区民の方の親しみもふえているので、足立区政としても、広報といいますが、もっといいところをどんどん自慢するぐらいな、どこかの区か忘れてしまったんですけれども、自分たちの区は 区よりは勝てそうな気がするとか、でも 区には負けると思うみたいな、そんな気持ちで足立区もすごくいいところをどんどん自慢するぐらい、知らないんですよ、皆さん。区に住んでいる方は、区政がすごくいいことをしているとか、こういう効果が上がっているとか、こういう声が上がっているということを知らないので、少し足立区も自慢するというか、胸を張って、区の職員の方々もすごくしっかりやっぴらっしゃると思うので、自慢するぐらい広報していてもいいのではないかなと思います。ちょっと評価委員の仕事とは違うんですけれども。

田中会長 どうもありがとうございました。

次に金子委員、お願いいたします。

金子委員 私は、この評価委員の仕事があるということを知ったのが「あだち広報」でした。このときに目を引いたというか、びっくりしたのが、政策経営という言葉で非常にびっくりしたんですね。今まで行政というのは、経営という意識はなかったんじゃないかという思いでいたわけです。さらに私は外国に長いこといたものでしたから、行政というのは区民に対して上から目線というか、そういう印象を持っていたもので、実際に評価委員になりましてから、その考えは完全に覆りました。何度か説明を受けましたし、書面にもありましたけれども、行政と区民は対等であるという考えですね。この考えに私は非常にびっくりしました。そしてヒアリングのときに担当の課の方々が非常に真摯にお答えくださいました。これにもびっくりしております。そして幾つかのプロジェクトを評価したのですが、事業が非常に多岐にわたっているということですね。これまたびっくりした次第であります。なおかつ担当の部署が横のつながりを持っていて、いわゆる縦割りをなくするという姿勢がわかりまして、これまた感銘を受けました。区の職員の方々に私は敬意を払いたいと思います。事業が多岐にわたっていますけれども、いわゆるパンとサーカスを両方区民に提供しようという姿勢があるんじゃないかと思いました。

そして一方で、今少子化、高齢化と言われてはいますが、こうした予算がいつまで続くのかしらという一種の危惧を持っています。というのは、今ある年度の予算は、その年に全部使っちゃうわけですね。将来に対する蓄えとか、そういったものがないんですけれども、将来世代に同じような行政サービスが提供できるのかとか、ちょっと心配という面もあるわけです。私たちの年代はいいと思うんですが、これからの若い世代が同じようなサービスが果たして受けられるのかということになってくると、一度は区の方々にそういった意見を聞いてみたいと思うんですけれども、今日はできませんけれども、そういった質問も持っております。以上です。

田中会長 どうもありがとうございました。

それでは矢野委員、お願いいたします。

矢野委員 まず、今回評価委員として評価させていただいたんですけれども、先回も感じたんですけれども、既にでき上がってしまっている事業と、まだこれからというもの、あるいは努力してもなかなか成果が出ないんじゃないかという分野があって、もう既にでき上がってしまっているような、例えばビューティフル・ウィンドウズとか、そういうことはある程度の努力によって高い評価を得ることができるけれども、商店街とか先ほど申し上げました町会・自治会の加入率に関しては、努力してもなかなか点数に結びつかない分野があるので、同じように行政の方も努力しているのに、でき上がってしまっているような事業に関しては高い評価を得て、そうでない部署に回された方の評価が低いというのは、ちょっとこの評価委員の評価だけでは仕事ぶりを評価できない部分があるんじゃないかというのが感じた1点です。

あと、先ほど山崎委員が、これからも学生や主婦とか、いろいろな立場の人が参加してほしいと言っていたんですけれども、仕事を持っている主婦とか学生とか、あるいは現役で働いている納税者の勤め人の方や何かは、こういう平日の昼間に集まって作業をするというのはちょっと難しいと思いますので、多大な負担を先生方や事務局にかけてしまうと思うんですけれども、これから先いろいろな人材の方に参加していただくということにおいては、平日の夜とか、あるいは土日、このような会議を開いたりするということも中長期的には必要じゃないかと思いました。

最後に、この評価委員の仕事をすることによって、こんな細かいところまで行政が働いて目配りをしてくださっているということを知って感銘を受けました。多くの区民もやはり細かいところまでいろいろなことをやってくさっているということを知らないと思うので、これからもこういうことをやっているということを十分広報活動を通して知らせていくことができるんじゃないかと思いました。この評価委員の仕事を通して、足立区内におけるいろいろなことを知ることができたのもよかったと思います。し尿運搬の仕事がまだこの足立区にあったとか、いろいろ細かいところも知ることができたのもよかったと思います。どうもありがとうございました。

田中会長 どうもありがとうございました。

それでは森泉委員、お願いいたします。

森泉委員 これで2年目をやらせていただいたんですけれども、まず、こういった制度があると

いうことは、ほかの区とかを見ましても少ないので、区民と行政が意見を交換する場として非常に重要な制度だなと感じております。

問題点として私が感じたところは、先ほども何人かの委員が言われていますけれども、評価点の問題で、4が標準ですよというふうに最初に言われてしまうと、4か3か5かということになってしまいますので、そういう枠はなくして、やはり悪いものは悪い、いいものはいいというふうな評価をつけられるような仕組みにしてほしいと思います。

それから、プロジェクトの中で活動指標が出てくるわけですが、見ていると非常に活動されていることはわかるんですけども、全般的に並べたときに統一性がないものですから、評価基準をどういうふうに評価する者として持ったらいいのかなというのが、ちょっとわからなくなってしまっているところがあるんですね。しっかりやっているなど、100%行っていると言われると、まあよくやっているんだなど。そういう視点しかないものですから、もうちょっと、本当に評価できる統一性というものが欲しいなと思っております。

それから成果分析の中で、こうしました、ああしました、何があったから低下しましたということなんですけれども、評価する側としては、例えば数字を挙げられた場合に、全体の中でそれがどのくらいの割合を占めているのかということがわからないと、例えば認可保育園が何個ふえましたとか言われても、目標が幾つに対して何個しかいっていないと。確かに書いてあるんですけども、短期的な目標での数値なものですから、長期的な視点での目標に対して個別分析というのはちょっとわからないという状況があります。

それと、うっかりしてしまうのは、投入資源に対してこの事業が果たして有効なのかという点が非常に分析しにくいということです。私も一部質疑応答の中で総事業費のことについてお聞きしたときに、この予算の変動を説明できないセクションがありましたので、総事業費の変動についても、やはり説明していただく時間が欲しいなと思います。そうじゃないと、投入資源に対して果たして有効なのかどうか、これを判断することはできないと思います。ただ書いてあるだけになってしまいます。私としては以上です。

田中会長 どうもありがとうございました。

それでは田島委員、お願いいたします。

田島委員 田島と申します。私も今年2年目で、まず初めに政策経営課の方に御礼申し上げたいなと思ひまして、2年目で私は妊娠してしまって、妊娠中なので飲み物から何からいろいろご配慮いただいて、さまざまありがとうございました。

意見といたしましては、先ほどもほかの委員もおっしゃっていたんですけども、ヒアリングの方式が2年目になってよくわかったんですけども、1年目だとよくわからない部分が多くて、調書を読み込んでわからないことが結構あって、「昨年はどうだったから、こういうふうな結果になりました」とか、もっとわかりやすくしてもらいたいというのがすごくあったのと、あと足立区ならではの政策がかなりあるので、「ひと」分科会しか私はいないのでわからないんですけども、

他区ではやっていないことが多かったので、そういったところを自信を持ってヒアリングのときに言ってもらったほうが評価しやすかったかなというふうに思いました。わからないことに関しては、皆さん真摯にお答えいただいて、すごくよかったなというふうに思います。

あと、「ひと」分科会は視察を行わなかったのでもし視察を行っていたらもうちょっと、紙というか、調書だけじゃないことがわかったのかなというふうに思うので、ヒアリングが何かのところ視察を組み込むという形で来年度とかは行ってもらったほうが、実質的な評価がもっとしやすいのではないかなというふうに思いました。以上です。ありがとうございました。

田中会長 どうもありがとうございました。

それでは、続いて藤後先生からお願いいたします。

藤後委員 今年度初めて参加させていただきました藤後と申します。1年目でしたので、私自身も少し消化不良になってしまった点がございます。ついていくのに必死だったというようなこともありますけれども、さまざまなフォローをしていただき、誠に感謝いたします。もう既に委員からも出てきておりますけれども、私が気づいた点としては3点ございます。

1点目は、事業理解ですね。ヒアリングが15分だと短すぎるといような感じを受けました。それから、ここに参加して初めて、他の部会は視察があったんだということを知りましたので、もし可能であれば私たちの分科会でも視察を希望したいと思います。それが難しいようであれば、例えば事業の担当者の方だけではなくて、現場の方がヒアリングの際に来てくださって、少し現場のご意見を伺うことができればと思っております。なぜあえてこれをお伝えするかというと、他区の委員会等に参加させていただいているときに、やはりヒアリング場面がございまして、その際当事者の方々からヒアリングをいただけることがございましたので、サービスを利用されている方と提供されている方では少し温度差があるということがそこでわかりましたので、その方法も検討していただければと思います。

2点目は評価の仕方でもございまして、先ほど森泉委員からもございましたけれども、一つ一つの評価に関して全体像が見えづらいということをかかり強く思いました。要は、もう既に報告書の中でも書いておりますけれども、不登校人数が何人で、その中で何人を目標にしているのかであったり、今回評価が低かったワーク・ライフ・バランスですけれども、企業数がどれくらいあって、その中で目標値がというような全体像が先に見えていれば、もう少し評価はしやすかったかなと思っております。それが2点目です。

最後の点ですけれども、今後のことに関係することで、ちょっと懸念していることがございます。報告書の配付方法が図書館だけというようなことで、そうなる多分限られた人数しか手に取ることがないのではないかと懸念しております。ですので、例えば、すばらしい委員の皆様方がいらっしゃいますので、それぞれの現場で何かミーティングみたいなものを開いていただいて、委員の方々から報告していただくということも、より今回の成果が浸透するのではないかなというふうにも思いました。本当に思いつきで恐縮でございますけれども、気づいた点としてご報告させていただいた次第

でございます。

田中会長 どうもありがとうございました。

それでは遠藤先生、お願いいたします。

遠藤委員 「まちと行財政」分科会の遠藤でございます。4年目ということで、どうしても分科会の報告を書くときに去年との比較から始まるじゃないですか。去年がこうで、今年はよくなつたと。そういうふうにかきたいんですけども、ちょっと今年は下がっちゃったりして。要するに、分科会長としては、去年の比較、バランス、いろいろなことを気にしながら、やはり4からまとめたいとか、そういうのがあるんですよね。どうしてもバランスを見てしまうと、なぜというのを説明するのは大変なことになるし、要するに継続性ということですね、比較、継続は大事なことです。それは分科会長だけが思っていればよくて、うちの分科会の皆さんは本当に個性豊かな方ばかりで、いろいろなご指摘をいただいてばらつくこともあるわけです、点数が。どうしようかなと。でも、それがこの評価の意味でして、なぜ3が出る、ばらつく、そこをいろいろお伺いすると、こういう観点もあって、こういう評価になるんだと。今年はおもしろかったです、その点。結果、この先も例えば区長の前での報告とか、そういうときも真っ先に申し上げるつもりですけども、常に進化してほしいということです。いい点をとっても安心せず、次を目指せと。去年と同じようにやっていけば、それこそこの点になるんだけども、そうじゃなくて次に行きなさいと。まちという部門ではまさにそうなんですけれども、例えば防災です。幾ら頑張っても、こういうところで一旦評価が高くて、やはり足立区というのは防災上非常にまずいまちなものですから、進化し続けたいいけないんです。全体像がこうだから今こうだという評価は、とてもじゃないけれどもできないです。非常に危ないまちなので。だけれども、やっていることは進歩しているんだ、ここを評価したいなと。まち部門はまさにそういうものばかりでして、だから1個1個のプロジェクトの個性というのがあるって、でき上がる評価があって、次の段階があって、何か4年やっていると愛情が湧いてきちゃいまして、何か独特な評価にはなつたかもしれませんが、いろいろな事情があると。それを委員の皆さんに支えていただいていると、こういうことでございました。ありがとうございました。

田中会長 どうもありがとうございました。

それでは沼尾先生、お願いいたします。

沼尾委員 まず初めに、今回取りまとめに当たりまして、分科会委員の皆様、ありがとうございました。それから事務局の皆様、特に今回私は一般事務事業ということで、財政課の皆様に変にお世話になったんですけども、本当にどうもありがとうございました。3点申し上げたいと思います。

まず1点目は、総括意見ということで全体にまとめたことでもあるんですけども、このヒアリングのプロセスの中で、我々が区民評価として行っているのは、行政のほうでやられていることを別に裁こうと思っているわけではなくて、そのサービス自体がいいか悪いか、どうしたらもうちょ

っと使い勝手がよくなるのかとか、自分たちにとってハッピーかということを考えているわけなんですけれども、ヒアリングをしながら担当課によって対応がまちまちというか、要するにこちらは素人なんだけれども、サービス利用者としていろいろ質問をするわけなんですけれども、あなたたちわかってないよね、みたいな対応でご説明をいただくようなところもあれば、逆に素人目線で区民の観点からいろいろ話をしたときに、ああ、全然思いつかなかったけれども、それはおもしろいから今度私たちも考えてみなきゃいけませんね、といった対話ができるような形でヒアリングができたところもあって、その雰囲気や様子が相当部署によって違ったなという印象を持っています。それぞれいろいろお立場もあるし、お考えもあるし、当然お忙しい中でこのように対応してくださっているということだと思うんですけれども、ぜひ区職員の皆様をお願いしたいのは、評価のプロセスというのを楽しんでいただきたいということです。これは遊ぶという意味じゃなくて、楽しんで、自分たちがやっていることって区民の人たちはこういうふう思うんだとか、なるほど、この辺はもうちょっと説明の仕方を工夫しなきゃいけないとか、こういうふうに説明したほうがわかりやすいんじゃないとか、そういうことも含めて、同じ行政サービスを提供するのであれば、やはり相互に理解し合うのはとても大事なことなので、ぜひそういう機会として楽しんでいただけるような場にならないかなと。逆にそれをするためには、評価委員の側がどういうふうでなきゃいけないのかとか、その評価の場ですよ。フロア環境設定の仕方とか進め方というのをどういうふうにしていけば、お互いにポジティブに、和気あいあいというんでしょうか、もちろん線を引かなきゃいけないところはいいんですけれども、そのあたりの雰囲気づくりというのはもうちょっと考えられていいのかなという感想を持ちました。

それから2点目は、今日の評価委員の方々のコメントを聞いてなるほどと思ったのが、現地視察に行ったときのインパクトとか感想というのは実はかなり大きな意味を持っていて、これはちょっと自分たちの首を絞めることにもなるんですけれども、報告書の中に現地視察レポートみたいなものが写真とか何か入って、こう思いましたと入るというのも、やり方としてはあるのかもしれないというふうに思いました。恐らくこれは担当課のほうからすれば、自分たちの所管のところだけそれが入っちゃったみたいになるとどうなのかなとか、区のほうではお考えになることはあるかもしれないけれども、それはそれとして、なかなかそういう区民レポートをする機会はないので、そういうのもあってもいいのかなもということです。

それから3点目として、これは一般事務事業にかかわることなんですけれども、一般事務事業評価の場合には重プロではないので、ある意味単年度で、単発で評価をしていくということになります。そうすると、前年度との比較とかいうことでもないんですけれども、突然その事業が降ってくるので、その事業がいつごろからどういう成り立ちで始まっていて、今、区政全体の中でどういう位置づけにあるのかというところが何となくわからないまま、その事業の評価に関する庁内の調書とか何かが出てきてしまって、いろいろ話を聞くと、昔ながらの町会とのつき合いでやっているものとか、国のほうのある種の法制度があって、それが区に降ってきたものとか、あるいは新しい

ものなのか古いものなのか、よくよく聞くとわかるんですけども、その事業自体の過去の経緯と現在の区政の中での位置づけみたいなものがわかって、それから評価調書というのが出てくると、もう少し合理的に評価ができるのかなと、そういう感想を持ちました。このあたりが今後の課題かなと思ったところです。どうも本当にありがとうございました。

田中会長 どうもありがとうございました。

それでは石阪先生、お願いいたします。

石阪副会長 皆さん、お疲れさまでした。私も「くらしと行財政」のほうで担当させていただきました。その中で幾つか気づいた点なんですけれども、まず1つは、中長期の方向性のところが、大体検討していくとか、非常にざっくりとした、今の事業の延長上に検討だけしますみたいな、大雑把な中長期の方向性が多かったんですね。場合によっては、担当者であれば、これは余り意味がないとか、中長期的にはもう必要がなくなるんじゃないかという意見があってもいいし、あるいはビジョン的に、これはこういうことだからすごく大事なので、今後はこういう形を変えていくんだ、ビジョンが余りにも乏しすぎると。短期のところはいろいろな事業をこうやっていくということでもいいんですけども、中長期の書き方がちょっと大雑把、場合によってはほとんど何も考えておらずに、自分の担当のときだけとかくうまくいけばいいというようなところがちょっと見えなくもないので、このあたりの書き方というのは、ぜひもうちょっと我々にわかるような形で具体的に書いてほしいというのが1つ。

もう一つは、先ほど沼尾先生も楽しんでやるということがありましたけれども、この委員会として僕はベストの事業を表彰してもいいと思うんですね。1位、2位、3位ぐらいつけて。これは今年は本当によかったと。去年に比べてこれだけよかった。そうすると担当部署の励みにもなると思うので、何となく数字にしてしまうと横並びで、どこが頑張ったとか、あるいはどこが力を入れたというのがわかりにくいので、皆さんの総意で、ここは特別に何か我々のほうから頑張ったということを、ワーストをやるのはちょっとまずいと思うんですね。ここは特にひどかったみたいなことはちょっとまずいと思う。楽しみという意味で言うと、担当部署を表彰するというか、そういうことがあってもおもしろいのかなと。そうすると恐らく励みになって、ほかの部署も、うちも来年はあれを狙おうと。区民評価委員の表彰をとってやろうということにつながるのかなと。こういうところがあったりすると、我々も最後の議論が盛り上がるんじゃないかと思うんですね。どこをベストワンにするかとか、そういうのがあってもおもしろいのかなと。

それから、直接この区民評価と関係ないんですけども、今回、「協創」という言葉が非常によく出てきました。恐らく来年度以降は、協創という視点で事業を位置づけた場合に、例えば協創というのはいろいろな主体が入ってきて、そして1つの部署だけじゃなくて連携して効果を生み出すということですから、例えばこの区民評価とは別に協創の視点で新たに評価をしてみると、事業によっては違った評価が出ると思うんですね。そういう場合は区民評価と別の組織のところで、何か新たな評価をするような仕掛けや仕組みというのをつくっていく必要があるんだろうなと。もっと言

ってしまえば、区民評価になじむ評価と、あるいはそうではなくて、例えば専門家や、そういった協創の視点での評価のほうが適したものというのを整理していく必要も出てくるんじゃないだろうか。そういう点では今後どの部分を区民評価がやって、場合によっては幾つか一緒にやってもいいと思うんですけども、あるいは併用してもいいと思うんですが、その評価の整理というところももう一度しっかりやってもらって区民評価になじむ。そういう意味では、視察があるような具体的な施設があったりとか、我々も視察に行ったんですけども、コミュニケーションをとる中で非常におもしろかったですし、逆に言うと、そういう部分というのはぜひ区民の皆さんに見ていただくとか、あるいは感じていただくということは大事だと思うんですが、例えば数字だけのものであったり、あるいは庁内評価で十分だろうというところについては、ちょっと見直していくようなこともあり得るのかなと思いました。以上です。

田中会長 どうもありがとうございました。限られた時間でしたけれども、皆さんから感想をいただくことができ、私も聞いていてうれしいというのはおかしいんですけども、この場にかかわることができて本当によかったなというふうに思います。

今皆さんのお話の中でもありましたように、私自身もこの区民評価委員会の評価活動にかかわるようになって今年で6年目になるわけなんですけど、毎年新たな発見というか、勉強させていただくことが常にたくさん出てきて、そのたびに、こんなすごい取り組みというのをやっている。しかもそれをこういった、ある意味真剣な場所で皆さんで評価し合うというふうな枠組み自体というのは本当に素晴らしい制度で、この区民評価の制度自体というのは今後もずっと続けていってほしいなというふうに思っております。途中でいろいろといただいたご意見の中に、もっと足立区のいいところというのを広報していくべきなのだと。実際に私が書かせていただきました「報告にあたって」のところでも少し述べましたけれども、区民というのが恐らく一番大切な基幹を成す部分にはありますけれども、それを越えて区の外に対しても広報、足立区のいいところをどんどん発信していくということは、とても大切なことではないかというふうに思っております。

「報告にあたって」のところでも書きましたように、今までは町会や自治会というものが基盤になっていたんですけども、それ以外のところにアプローチしていくというのは、今後どうしても必要になってくるということでございますので、そこへのアプローチというのが区民の全体、こういった活動に携わってくる人たちや町会の活動に参加している人たちだけではなくて、足立区民全体を巻き込んで区政を進めていく、また区の活動を進めていく上で非常に重要になってくるのではないかとこのように思います。

それから、毎年課題として残るものとしては評価の方法というところがありまして、今年は4ありきというのはどうなんだというところに、かなり踏み込んでご発言いただいたような感がありますけれども、継続性というふうな言葉から考えると、やはりどこかに錨はおろしておいたほうがいいというところはあると思います。ただ、その錨に余りにも引っ張られて評価自体というものがそこに収れんしていくというのは、あまりよろしいことではないのかもしれないので、今後、評価の

方法もわかりやすい指標をつくって、メリハリのある評価をしていくということは、やはり来年度以降も課題になっていくというふうに思いますので、そこに関しても議論というものを続けていくことができるといふふうに思っております。

それから最後に、沼尾先生から評価の活動を楽しむというので、私自身は本当にいろいろと勉強させていただけるので楽しい活動というふうに思っているわけなんですけれども、行政の方にとっても、区民の方々がそれぞれの事業をどういふふうに見ているのかということを知ることができる非常にいい機会ですので、まさに先ほど笠間委員からおっしゃっていただいたように、何も私たちは批判をするためにここにいるわけではなくて、建設的な意見というのを述べるためにここにやってくるわけですから、意見というものを聞いて取り入れることができるようなところ、また前向きに検討できるところというのは積極的に耳を傾けていただければというふうに思いました。まさに私たちは裁こうとしているわけではないという沼尾先生の言葉というのがそのとおりだと思いますので、今後もよりよい区民と区政とのキャッチボール、石阪先生もおっしゃったように、協創というフレーム枠だと、多分今までの区民と区政というふうな双方向だけのキャッチボールではなくて、大学だったり企業だったりというものを巻き込んで、お互いに知恵を出し合う。その知恵を出し合う上では雰囲気というのはとても大切だと思いますし、お互いにいい雰囲気の中で話し合えるということが、協創を進めていく上でとても大切になっていくのではないかとこのように思いました。

本日の議論をもとに若干の修正、特に「報告にあたって」のところの修正を施して最終版というふうにごめささせていただきます。来週9月8日に私から区長に答申をさせていただきます。その際には、今日いただいた皆さんのご意見も可能な限り区長に直接お伝えしたいと思いますので、また答申の報告が終わり次第、皆さんにさせていただければというふうに思っております。

以上で本日予定しておりました内容は全て終わりでございます。本日も長い間どうもありがとうございました。

それでは最後に事務局、よろしく願いいたします。

事務局（政策経営課長） 1時間半にわたりましてご議論いただきましてありがとうございました。今日をもちまして報告書の案ができ上がり、来週に答申をいただく形になります。その先は、この報告書を所管のほうにきちとこちらから投げた上で、年度の最後には反映結果として、そういったものを所管から集めて1つの冊子としてまとめてまいりますので、今日いただいた意見を次の評価にも生かしていきたいと思っておりますし、また、今ご意見がございましたが、協創についても別の観点で、どんな形で評価のやり方をまとめていったらいいかということも、また引き続き皆様からご意見を頂戴して検討していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。長時間にわたりましてありがとうございました。

2 その他

集合写真の撮影

事務局（経営管理担当係長） 続きます、事務局からのご連絡になります。

メールでご連絡しましたが、これから集合写真を撮らせていただきたいと思いますので、用意ができますまで、お席にてお待ちいただければと思います。

（集合写真撮影）

午後 2 時 3 2 分 閉会